

# 園選びに関する保護者の意識調査

# 目次

1. 調査にあたって
  - ・本レポートの目的
  - ・調査概要
2. アンケート調査 結果の要約
3. インタビュー調査 結果の要約
4. 2つの調査から見えた園選びに関する保護者の価値観・意識
5. 終わりに

# 1. 調査にあたって

## 本レポートの目的

フレーベル館は今後、「『子どもたちの豊かな未来』創造のため、『子育て』に関わる全てを支援し、リードしていく存在となる」ことを経営目標として掲げています。

「『子育て』に関わる全てを支援する」には、子育てに関わる人々の現状を知る必要があります。これまで行ってきた調査において、子育てに関わる人々（特に保育者と保護者）の子どもや保育に対する意識のズレを感じることがわかりました。

今回、幼稚園・保育所の保護者を対象に、「子どもが通う園をどのように選んだか」に着目しアンケートとインタビューを行い、その結果を本レポートにまとめました。

調査を通してズレの正体を明確にし隠れている課題を洗い出すことで、「子どもたちの健やかな育ちを支える」ために、我々にできることは何かを考えるきっかけになればと思います。

## アンケート調査

### 目的

園と保護者のタッチポイントのひとつである「子どもが通う園を保護者が選ぶ場面」に着目し、園を選ぶ時、保護者がいつ、どのような方法で、何を感じたかを知ること、保護者の実状を明らかにする。

### 対象者

妊娠中から小学校3年生の子どもがいる「ASOPPA!」会員772名  
※ASOPPA!：株式会社フレーベル館が運営する子どものあそびがパッと見つかるWEBサイト

### 期間

2022年2月14日～3月14日

### 方式

インターネットを使ったアンケート調査を実施

## インタビュー調査

### 目的

幼稚園・保育所の保護者が入園する園を決める際に、どのような考えを持ち、判断をするかについて、園を調べる時、また園見学や入園説明会の時に注目し、保護者の子どもへの思い、保護者の悩み等を明らかにする。

### 対象者

2020・2021・2022年度入園・転園の子ども（末子）がいる、家庭内で中心的に園選びをした  
・幼稚園を選んだ保護者 5名（全員女性・専業主婦、うちプレから入園4名）  
・保育所を選んだ保護者 7名（全員女性・正社員、うち育休中3名）  
計12名  
結果として全員女性だった。そのため、このレポート内での保護者は母親を指す。

### 期間

2022年2月22日～3月11日

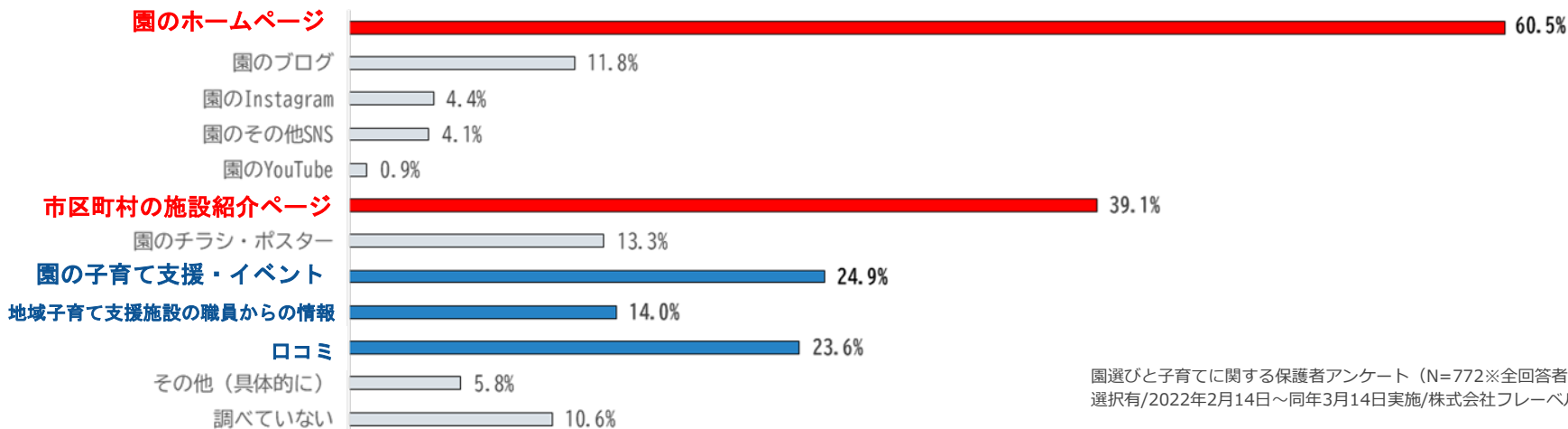
### 方式

オンライン（zoom）でのデプスインタビュー形式にて実施

## 2. アンケート調査 結果の要約

# 1. 園を探す際、保護者の約60%がホームページを見ている

Q.どのように園を調べましたか？調べる際に参考にしたものを全てお選びください。※複数選択有



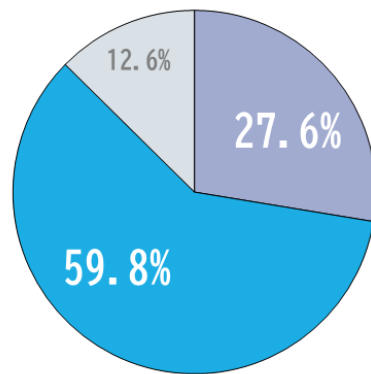
園選びと子育てに関する保護者アンケート（N=772※全回答者・複数選択有/2022年2月14日～同年3月14日実施/株式会社フレイベル館）

## 考察

- 保護者は、園を調べる際に参考にするものとして、「園のホームページ」が約60%、「市区町村のHPの施設紹介ページ」が約40%と、「**まずはネットで検索**」という動きをとるようだ。
- 「園のホームページ」「市区町村のHPの施設紹介ページ」といった「**公式な情報**」が多くを占めるが、一方で「園の子育て支援・イベントに参加」「**口コミ**」といった「**リアルな体験や情報**」も参考にしている傾向があり、「**公式な情報**」「**リアルな体験や情報**」どちらも参考に情報を補完しているようだ。

## 2. 園を調べた際、各園の考え方の違いについては、保護者の約60%が「何となくわかった」状態

Q.園を調べた際に各園の保育の考え方の違いはわかりましたか？



- わかった
- 何となくわかった
- わからなかった

園選びと子育てに関する保護者アンケート（N=674※園を調べていない（98）を除く /2022年2月14日～同年3月14日実施/株式会社フレーベル館）

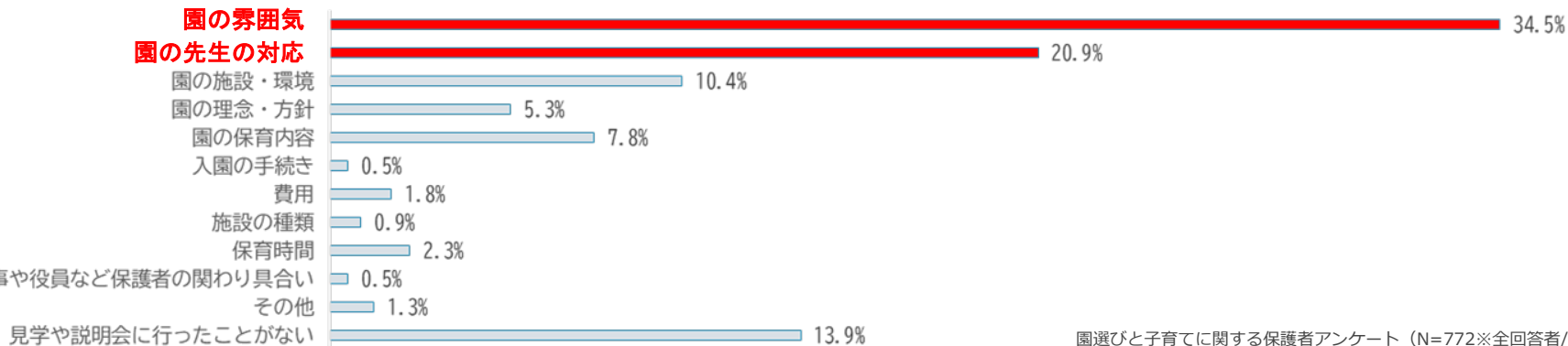
### 考察

- 園を調べた時点では、約60%が「なんとなくわかった」状態。「わかった」と言い切れない何かがあるようだ。
- 「何となくわかった」の具体的な内容については、今後の調査で明らかにしたい。



### 3. 園の見学や説明会で最も重視して確認しているのは、「園の雰囲気」！

Q.園の見学や説明会に行った際に、最も重視して確認しようと思ったことを教えてください。



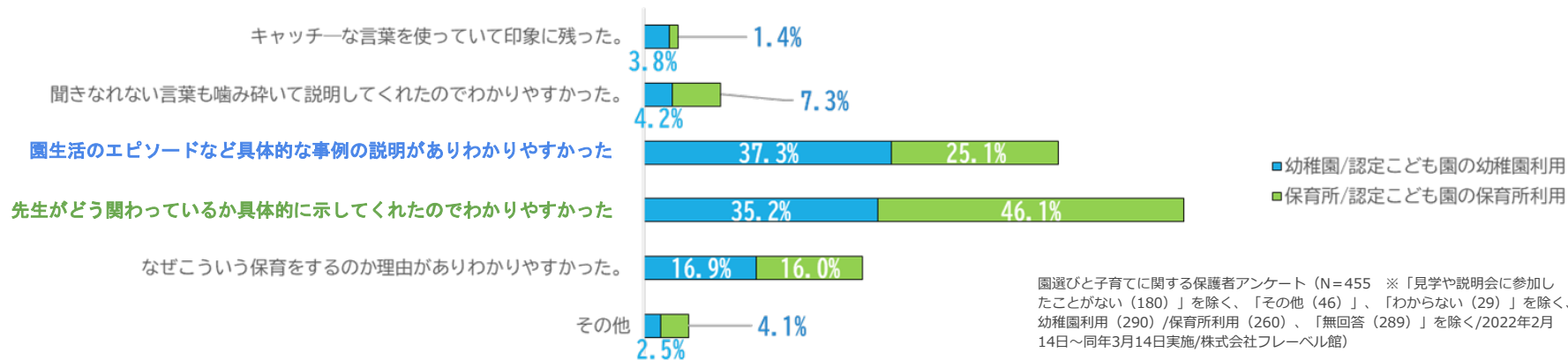
園選びと子育てに関する保護者アンケート（N=772※全回答者/2022年2月14日～同年3月14日実施/株式会社フレーベル館）

#### 考察

- 保護者は園見学や説明会で、「園の雰囲気」を最も重視して確認しようとしている。それらが、ホームページからはわからないからではないか。
- 「園の雰囲気」「園の先生の対応」「園の保育内容」等のソフト面を重視しているため、見学会や説明会で普段の様子を見せたり、普段先生がどのように対応しているのか等を伝えることが必要。

## 4. 理念・方針の説明は、「キャッチーな言葉」より「具体性」が求められる

Q.園の見学や説明会に参加し、理念・方針に共感できた園が「あった」と答えた理由について近いものをお選びください。



### 考察

- 保護者の共感したポイントは「先生がどう関わっているか具体的に示してくれたのでわかりやすかった」「園生活のエピソードなど具体的な事例の説明がありわかりやすかった」。この結果から「**具体的な説明**」の有無が、**理念や方針の共感のしやすさにつながっている**のではないかと考えられる。
- 幼稚園保護者は「園生活のエピソードなど具体的な事例の説明がありわかりやすかった。」が一番多かった。保育所保護者は「先生がどう関わっているか具体的に示してくれたのでわかりやすかった。」が一番多かった。このように**関心がある内容が、幼稚園保護者と保育所保護者とで違うのは、子どもの年齢・発達や園で過ごす時間の長さ**が関係しているのではないかと考えられる。
- 保護者へ具体的に伝える際のポイントのひとつの目安として、「子どもの年齢・発達」に着目するとよいかもしれない。保育所入園に多い時期(0～1歳ごろ)は、先生と過ごす時間が主であり、幼稚園入園に多い時期(2～3歳ごろ)は、先生だけでなく友達との関わりが広がり、生活面の自立が進む時期。**子どもの年齢・発達に応じた保護者の状況に合った具体的な説明が大切。**

### 3. インタビュー調査 結果の要約

# 1. 幼稚園保護者 | ベースにある子育ての価値観と園選びの価値観

本ページでは幼稚園保護者に行ったインタビューから見えた子育てと園選びの価値観についてまとめる。

## 1 ベースにある子育ての価値観

子育てが私の生活の中心。イヤではないが、子どもと離れる時間があるとホッとする。子どもには色々な経験をさせてあげたい。

- 子育てを中心に生活をしているので、**子どもにかかわる「責任」は自分にある**と考えており、他人に迷惑をかけてはいけないと思っている。
- 子どものことは大好きだけど、四六時中一緒にいて気が休まらない。**幼稚園に行ってくれている間は、「ママ」の責任から解放され、ほっとできるひと時。**
- 入園した後は、園のことを信頼しているので**「園に行っている間のことは園にお任せします」というスタンス。**
- **子育ての悩みは同じ境遇にいる人（ママ友等知り合いだけでなくSNSの書き込みなども）が共感してくれると支えになる。**しかし、古くからの友だちとの関係とは違うと考えている。
- 子どもには、色々な経験をすることで好きなことを見つけてほしいと思っている（家庭ではできないことを園でやってほしい）。また、**子どもが学校や社会に出て困らないように、環境を用意してあげるのが親の役目**だとも考えている。

## 2 園選びの価値観

どう選べばよいかわからないから、小学校のイメージで園を認識。実際に自分で確かめるが、そこまで違いがわからない

- 幼児教育や子どもの発達等に詳しくないため、**幼稚園を「教育系」「のびのび系」の2つで認識**している（それくらいしか違いがわからない）。**遊びが学びにつながる認識が無い**ので、のびのび系は、教育系と比べて「厳しくない方」と捉えている傾向がある。
- 「**子どもが小学校で困らないように、幼児期から小学校のような環境で過ごさせたい**」と考える保護者は「教育系」を、「**小学校は決められた活動ばかりになるから、幼児期は自由に遊ばせたい**」と考える保護者は「のびのび系」を選ぶなど、**基準が小学校にある。**
- 「**自分の目で確かめたい**」という気持ちはあるが、自分の経験から園生活を想像できるため、園見学ではそこまで積極的に確認しようとはしておらず、施設や特別な教育カリキュラムなど目に見えるもので判断。しかし、**先生の関わり方や雰囲気は重視**しており、**判断に大きい影響を与える。**

## 2. 保育所保護者 | ベースにある子育ての価値観と園選びの価値観

本ページでは保育所保護者に行ったインタビューから見えた子育てと園選びの価値観についてまとめる。

### 1 ベースにある子育ての価値観

子育ても大事。仕事も大事。両方あって私。  
とにかく時間がないので、効率重視。  
子どもには色々な経験をさせてあげたい。

- 子育てと仕事の両立が必須項目。**頼れる人は少ないけど自分で選んだ道だからやるしかない。**効率的に動かないと、一日のタスクが終わらない。
- 入園後は子どもと離れている時間が多いので、**その間の子どもの様子について小さいことでも知りたい。**
- 「人間関係」を良好に保ちたいため、**仕事・ママ・プライベートの、各場面に応じて「自分」を使い分ける。**ママ友には、子育ての相談したり情報交換もするが、必要以上に深入りされたくなく、古くからの友達とは住み分けをしている。
- 自身の幼児期の記憶が判断や行動に影響する（嬉しかったことは子どもにも経験させてあげたいし、反対に嫌だったことは子どもには、させたくない）。
- 子どもには「自分らしく生きてほしい」と思っており、**様々な経験ができる機会や環境を用意することが親の務めだ**と考えている（家庭ではできない経験を園ですてほしい）。

### 2 園選びの価値観

確実な園選びをしたいが、どう選べばよいかわからない。それでも自分が納得できるように安全で信頼できるかを確認。小学校を意識しないわけでもない。

- 仕事復帰のために、保育所には「**まず入る**」ことが**第一優先**。効率を考えて、生活動線を基準に保育所を探す。
- 園のホームページなどを最初に見るが、子どもや保育に詳しくなく、**保育所がどのようなことをしているかわからない**ので（安全か、ただ遊んでいるだけなのか等）、**実際に園へ行き、自分で確認したい**と考えている。
- 園見学では、先生の「受け答え」や「在園児への関わり方」などを確認。**自分の子どもにどう関わってくれるのか、信頼できるかを多角的な視点から検討する。**
- 園選びの際、親は産後すぐでセンシティブになっている時期。些細なことも気になったり、不安になったりするため、**園を見る視点はシビアで細かい。**
- **小学校で困らないように教育を園でやってほしい**という思いはあり、教育をやってくれる園があると惹かれる（教育は小学校のイメージ）。

## 幼稚園・保育所の保護者の比較から見えた共通点とギャップ

ここでは、園選びにおける、幼稚園保護者と保育所保護者、両方に見えた傾向（共通点）とそれぞれで見えた傾向（ギャップ）を明らかにする。

### 共通点

「保育」を知らないので、園をどう選べばよいかかわらない。

実際に自分の目で見て、自分で決めたい。決め手は「信頼ができるかどうか」

両者共、これまで**幼児期の教育や園について触れる機会がなく、「保育」というもののイメージをもっていない**（「遊びが学びにつながる」という幼児期の教育について知らない）。そのため、**教育といえば小学校教育をイメージし、それがないと不安になり、程度の差はあるが、小学校で困らないように、園で教育やしつけをしてくれることを望んでいる。**遊びに対しては、小学校の休憩時間くらいのイメージなので、「**遊びの中で育つ**」など言われても、**漠然としていて本当の意味を掴むことができない。**

両者共、**ホームページは見るが、そこに本当の姿や知りたい情報はないと思っている。そのため、実際に自分で見て、話を聞き、自分で決めたいと考える。**園を見る際には、子どもの様子はもちろんのこと、先生の園児への関わり方や、先生同士の様子等を見ている。園側の説明については細部を理解しているわけではないが、**根拠があるかや納得感を得られるか重視している。**その背景には、信頼できる人に預けたいという思いがあり、上から目線の対応や圧が感じられる場合、入園を避ける傾向がある。

### ギャップ

入園時点での子どもの年齢や就労状況が異なるため、園選びにおいて確認事項や姿勢が異なる。  
幼稚園> 子どもが楽しめるかどうか。切迫感は低め。  
保育所> 安心安全かどうか。切迫感が高い。

幼稚園は基本認可施設のため園庭・遊戯室があり、保護者自身も幼稚園に通っていた人が多いため、園生活のイメージもできる。そのため、保育所保護者と比べて、園選びの際に幼稚園について確認事項は少ない。**子どもが楽しめるかどうか、性格的に合っているかという視点で選んでいる。**プレ幼稚園から入園しないと3歳児で入園できない園もあるが、一時期より入園しやすいため、保護者側に切迫感はない。保育所は認可も認可外もあり、園によって園庭・遊戯室の有無、周辺環境、日々の持ち物等が異なることや、**低年齢で入園して園で長時間を過ごすため、子どもが安心して過ごせるかどうか細かく確認している。**仕事復帰が大前提のため、理念に共感をしても選ばない（生活動線から外れる。人気園のため入れない可能性があるためあえて第一志望にしない等）こともある。入園できないと仕事復帰できなかつたり、仕事を失うことにつながるので、「絶対入園したい!」という切迫感がある。

## 4. 2つの調査から見えた園選びに関する 保護者の価値観・意識

## 2つの調査から見た園選びに関する保護者の価値観・意識

アンケート調査とインタビュー調査から、下記のような園選びに関する保護者の価値観・意識が見えてきた。

### 1 情報収集

とりあえずはじめに園のホームページを見るが、  
それだけで園を決めることはなく、  
実際に園を見に行き、自分の目で確認したいと思  
っている

アンケートでは60.5%が園を調べる際に「園のホームページ」を参考  
にしているが、インタビューで聞いてみると、どんな園なのか知る  
ためにとりあえずホームページを見ていることがわかった。しかし、  
欲しい情報はホームページにはないと考えており、必ず園を実際に見  
に行く。ホームページで決めることはほぼない。

### 2 園の違い

正直、「違いはなんとなくしかわからない」。  
できるのは小学校イメージの「教育系」と「のび  
のび系」の分類まで。

アンケートでは、約6割の保護者がホームページから各園の保育の違  
いは「何となくわかった」状態と答えた。この「**なんとなくわかっ  
た**」の正体は、「**園には教育系とのびのび系があるようだ**」という認  
識であることがインタビューの分析からわかった。  
しかし、2つに分類はしてはいても、細かいところを他者に言語化し  
て説明できるわけではない状態であり、且つ、小学校をイメージして  
「教育系」「のびのび系」を分けているだけで、**保育者がイメージす  
る分類とは異なる。**



## 2つの調査から見た園選びに関する保護者の価値観・意識

アンケート調査とインタビュー調査から、下記のような園選びに関する保護者の価値観・意識が見えてきた。

### 3 見学时・説明会で見るポイント

ホームページではわからない実際の園の姿・園の雰囲気・先生の対応・先生の関係性に注目。何よりも、「信頼して子どもを預けられるか」が最大の注目ポイント。

アンケートでも、約過半数が、「園見学や説明会では、（理念・方針より）園の雰囲気や先生の対応」を重視している。インタビューでもそこは同じで、「園の理念・方針」はホームページですでに確認したが抽象的でよくわからない。そのため、園見学や説明会で保護者は「**園の雰囲気**」「**園の先生の対応**」を通して、それが**実際どう行われているのか、どのような対応をしているのかを、自分で確認している**ことがわかった。さらにインタビューでは、園の雰囲気や先生の対応だけでなく先生同士の関わりや関係性を見ていることもわかった。保護者がこのように先生に注目しているのは、ホームページや文章ではわからない点ということもあるが、**園の先生が信頼できる人かどうかを見ている**と考えられる。

### 4 理解・共感しやすい説明のポイント

保護者は保育についてわからない。そのため、園が大事にしていることや行っていることを、**どういう理由でどのように関わっているか説明があると、理解・共感につながる。**

アンケートでもインタビューでも、**具体的な説明が園の保育の理解や共感につながっている**ことがわかった。

その理由の一つには、**保護者が保育に対しての知識がない**ことがあげられる。例えば「室内遊び」という言葉も保護者にとってはイメージがつかない。又、もう一つの理由として「**根拠のないことを押し付けられたくない**」という**保護者の思い**がある。根拠のある具体的な説明があることで園への理解を深めることができる。

しかし、幼稚園と保育所で共感につながるポイントが異なり、幼稚園保護者にとっては「園生活のエピソードなど具体的な事例」が、保育所保護者にとっては「先生がどう関わっているか具体的に示してくれた」ことが、理解・共感につながっていた。これは、子どもが入園する年齢の違いが影響していると考えられる。

## 2つの調査から見た園選びに関する保護者の価値観・意識

アンケート調査とインタビュー調査から、下記のような園選びに関する保護者の価値観・意識が見えてきた。

### 5 理解・共感を妨げるもの

説明の具体性も大事だが、上から目線だったり圧を感じる説明だと保護者は共感しない。話し方などから信頼に値いするかを見ている

アンケートの母数が少ないため、傾向とは言えないが、インタビューの分析からわかったこととして、説明の際、**根拠がわからないものだったり、上から目線で押し付けてきたり、圧を感じる説明の場合は、印象が悪い**と感じていることがあげられる。

保護者が人として大切にされることで、この園なら自分の子どもを大切にしてもらえることを無意識に判断しているのではないか。

### 6 園選びののっぴきならない事情

保護者は園探しの中で、理念に共感する園に出合えるが、その園に入園するとは限らない。「入れること」が前提なので、「入れたい園を探す」より「入れたくない園を外す」のが園選び。

アンケートでは81.9%の保護者が、園見学や説明会で理念・方針に共感できた園があったということがわかった。しかし、インタビューでは、理念に共感したとしても入園するとは限らないという、驚きの実状が見えた。

特にその傾向は保育所保護者に顕著で、待機児童がいる地域では人気が高い園を避け、確実に入園できる園を選んでいる。園の理念に共感して心理的に第一希望としていても、実際に入園する園は確実に入れる別の園であることが多い。**保護者が園選びで行っているのは、実は「入れたくない園を外す」作業**なのかもしれない。

口コミに影響するので、理念に共感してもらうことは必要。

## 5. 終わりに

## 終わりに

今回調査をした結果、

- ・園を選ぶ際、保護者は保育に対してのイメージをもっていないこと
- ・だからこそ、イメージのある小学校を基準にして考えてしまうこと
- ・そして、わからないからこそ、実際に自分の目で見て確かめたいと思っていること
- ・具体的で説明があって初めて保育をイメージすることができること
- ・その際、根拠があるかどうかを意識していること
- ・保育内容だけでなく、保育者も見ていること
- ・子どもには、自分が信頼できる園、人に預けたいと思っていること
- ・実は、「入れたい園を探す」より「入れたくない園を外す」のが園選びであること

などがわかりました。

園側は園の説明を行う際、どこまでこのことを意識できているでしょうか。

自分たち側の理解で、自分たち側の言葉で語っていないでしょうか。

場合によっては、「園の思いが、きちんと保護者に伝わっていない」という状況になっているかもしれません。

私たちは今後、この調査結果をもとに、どのようなすれば園の思いが保護者に伝わるかを

園に発信していくことで、園と保護者の間にあったズレを解決していきたいと考えています。